



イーレックス株式会社[9517]

再生可能エネルギーをコアに
電力新時代の先駆者になる

I 会社概要

- ・ 業績推移

II イーレックスの事業紹介

- ・ イーレックスの脱炭素に向けた国内外の取組み
- ・ イーレックスが考えるトランジション対応
- ・ イーレックスのベトナムバイオマス事業

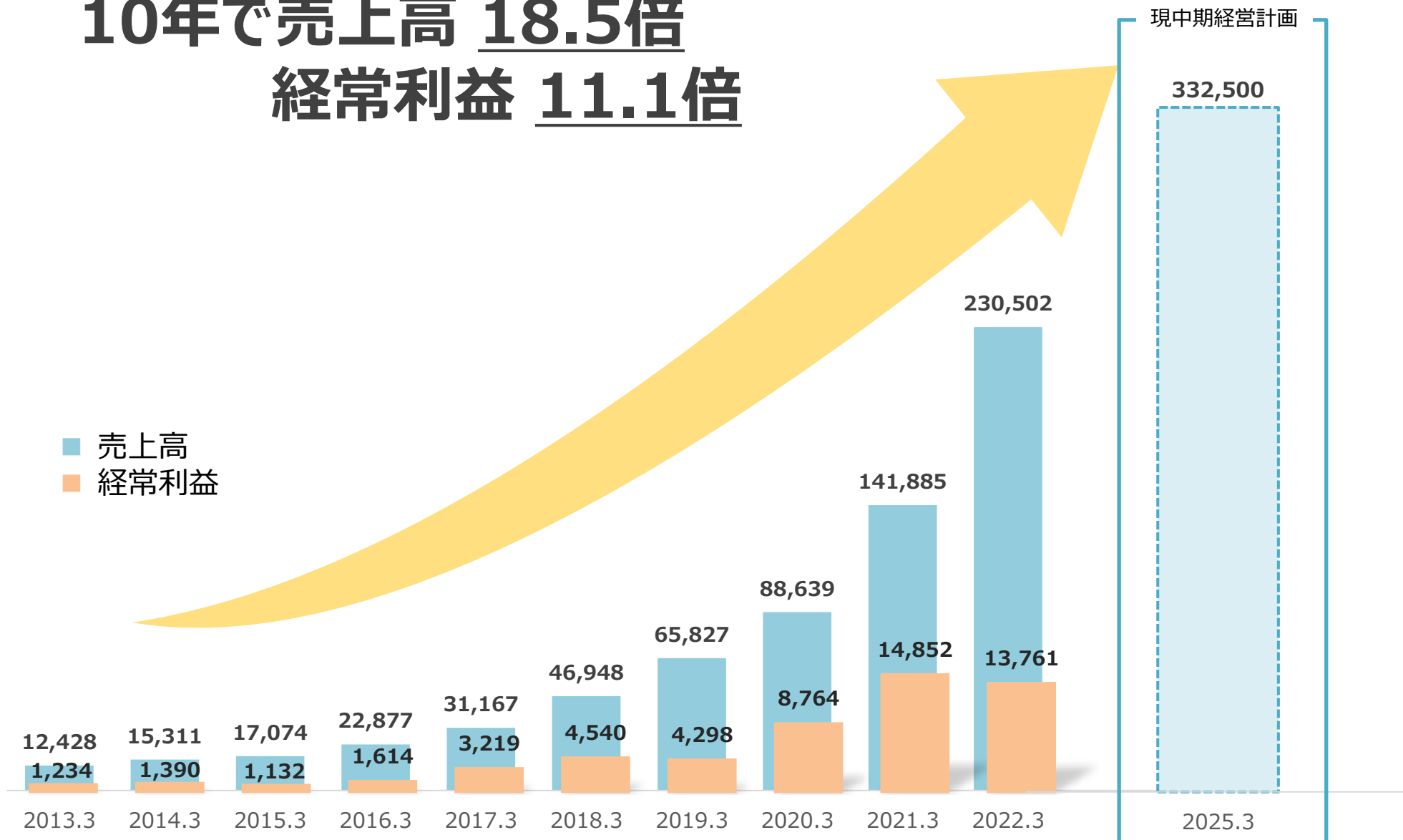
III 決算概要 2023.3期 第3四半期、2022.3期

appendix

会社概要

社名	イーレックス株式会社(erex Co.,Ltd)
本社	〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目2番1号 京橋エドグラン14階
設立年	1999年12月8日
資本金	112億円(2022年3月時点)
上場証券 取引所	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード9517)
販売関連 子会社	エバーグリーン・マーケティング株式会社(EGM) ※東京電力エナジーパートナー株式会社との合併 エバーグリーン・リテイリング株式会社(EGR) 株式会社沖縄ガスニューパワー(OGNP) ※沖縄ガス株式会社との合併 ティーダッシュ合同会社(T'dash) 株式会社イーセル(e-sell)
発電関連 子会社	イーレックスニューエナジー株式会社 (土佐バイオマス発電所) イーレックスニューエナジー佐伯株式会社 (佐伯バイオマス発電所) 豊前ニューエナジー合同会社 (豊前バイオマス発電所) 大船渡発電株式会社 (大船渡バイオマス発電所) ※持分法適用会社 沖縄うるまニューエナジー株式会社 (中城バイオマス発電所) 糸魚川発電株式会社(糸魚川石炭火力発電所)
その他 グループ子会社	佐伯バイオマスセンター イーレックス・シンガポール イーレックス・カンボジア イーレックスベトナム 等

10年で売上高 18.5倍
 経常利益 11.1倍



イーレックスの事業紹介

- 脱炭素の経営戦略 -

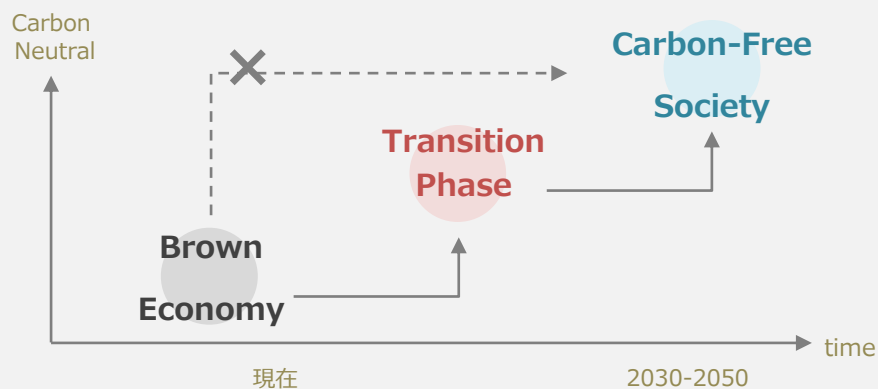
発電設備

国内：バイオマスを中心に **418MW** を保有

海外：バイオ・水力・太陽光建設中

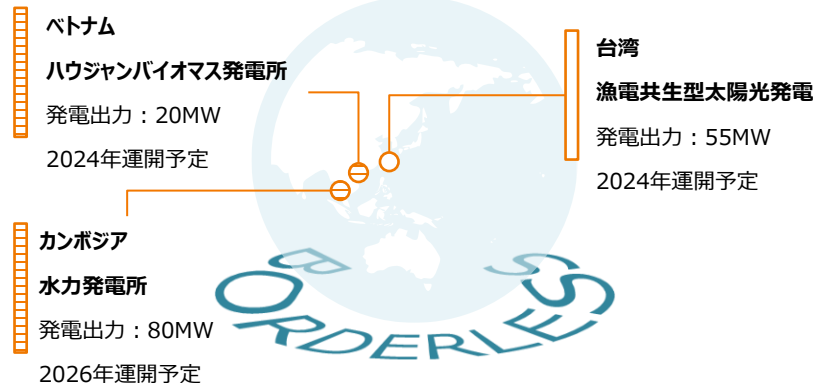


一足飛びにカーボンニュートラルは達成できない
今は、現実的なトランジションに取り組むフェーズ



温室効果ガスに国境は無い

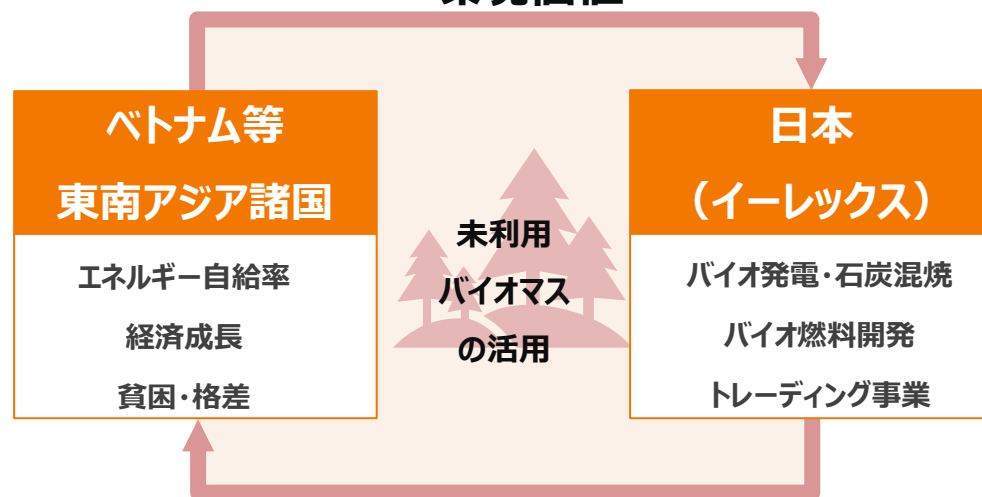
－ 脱炭素はボーダレスで対応すべき課題 －



- 先進国と経済成長著しい東南アジアの状況は異なり、一律の基準で脱炭素を推し進めることは不適切
- 脱炭素は必須だが、再エネには地域特性もあり、各国の状況を踏まえた対策が適切
- 東南アジア地域では豊富な**未利用バイオマス資源**を用いて、**安定的かつ安価なバイオマス**を導入することが現実的
- 自国内の未利用バイオマスの活用は、**エネルギー自給率向上・雇用創出等**の効果を通じ、**経済成長に資する**

イーレックスが推進するサステナブル経営

環境価値



社会貢献

持たされる価値

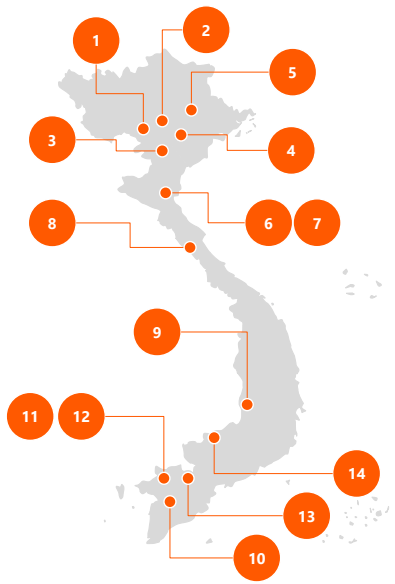
- ① CO2フリー電気の供給
- ② 安定的な電気の供給
- ③ 未利用資源を活用する競争力のある電気の供給
- ④ 事業を通じた雇用創出
- ⑤ エネルギー自給率向上
- ⑥ 管理された再生するバイオ資源



新設バイオマス発電

- 12省14地点でバイオマス（合計1,060MW）を計画中
- 北部は「木質残渣」、南部は「もみ殻」を活用予定

	プロジェクト名
1	Yen Bai
2	Tuyen Quang
3	Hoa Binh
4	Phu Tho
5	Bac Kan
6	Thanh Hoa 2
7	Thanh Hoa 1
8	Quang Binh
9	Dak Lak
10	Can Tho
11	An Giang 1
12	An Giang 2
13	Long An
14	Binh Phuoc

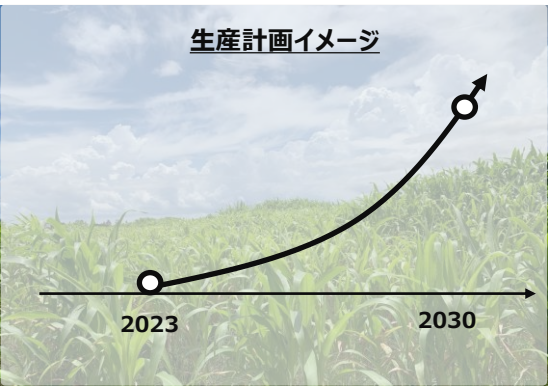


既設石炭トランジション

- 既設石炭火力に対し、徐々にバイオ混焼を行い、安定供給・経済性・脱炭素を同時に成立させるPJ
- ビナコミンパワー社とMOU締結済

新規バイオマス燃料開発

- ベトナム南部を中心にイネ科の植物である燃料用のニューソルガム開発を推進中



決算概要

～2023.3期 第3四半期～

2023.3期 第3四半期実績(2022年4月~12月)

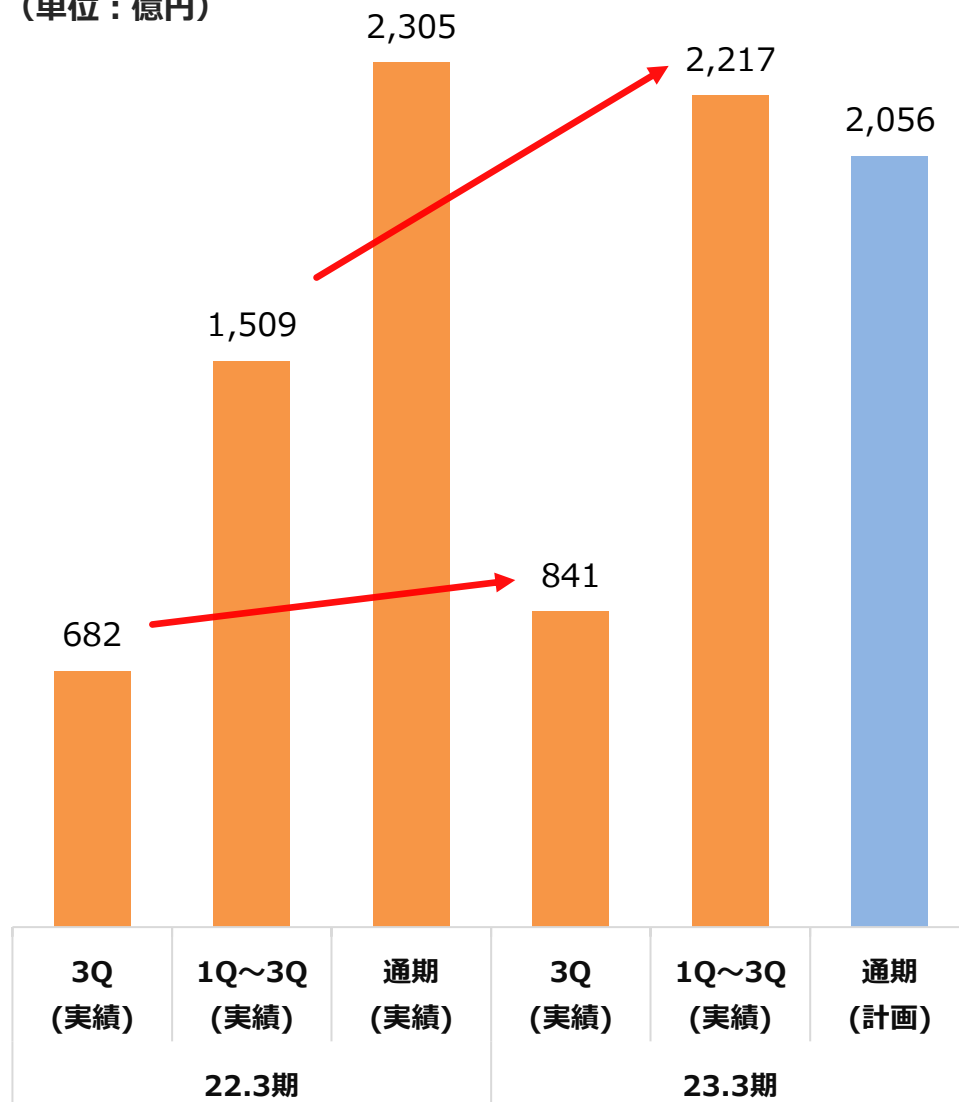
(単位：億円)	'22.3期 第1～第3四半期累計 (実績)	'23.3期 第1～第3四半期累計 (実績)	'23.3期 通期 (計画)	対前年同期 増減率	通期計画 進捗率
売上高	1,509	2,217	2,056	46.9%	107.8%
EBITDA*	150	160	—	7.0%	—
営業利益	79	143	149	80.7%	96.3%
経常利益	107	111	147	3.7%	75.9%
純利益*	79	注59	80	△24.9%	74.2%

注記：前年対比で法人税は増額(前年は繰越欠損金により法人税減額)

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

*親会社株主に帰属する当期純利益

（単位：億円）



売上高 **2,217** 億円

前年同期比 +46.9%

高圧小売

- 売上高減(同△1.3%)
- 値上により販売電力量は減少したが、販売単価は上昇

低圧小売

- 売上高増(同+53.5%)
- 需要家件数増 約31万件(同+3.8万件)
- 需要家件数と販売電力量は上昇。販売単価も上昇

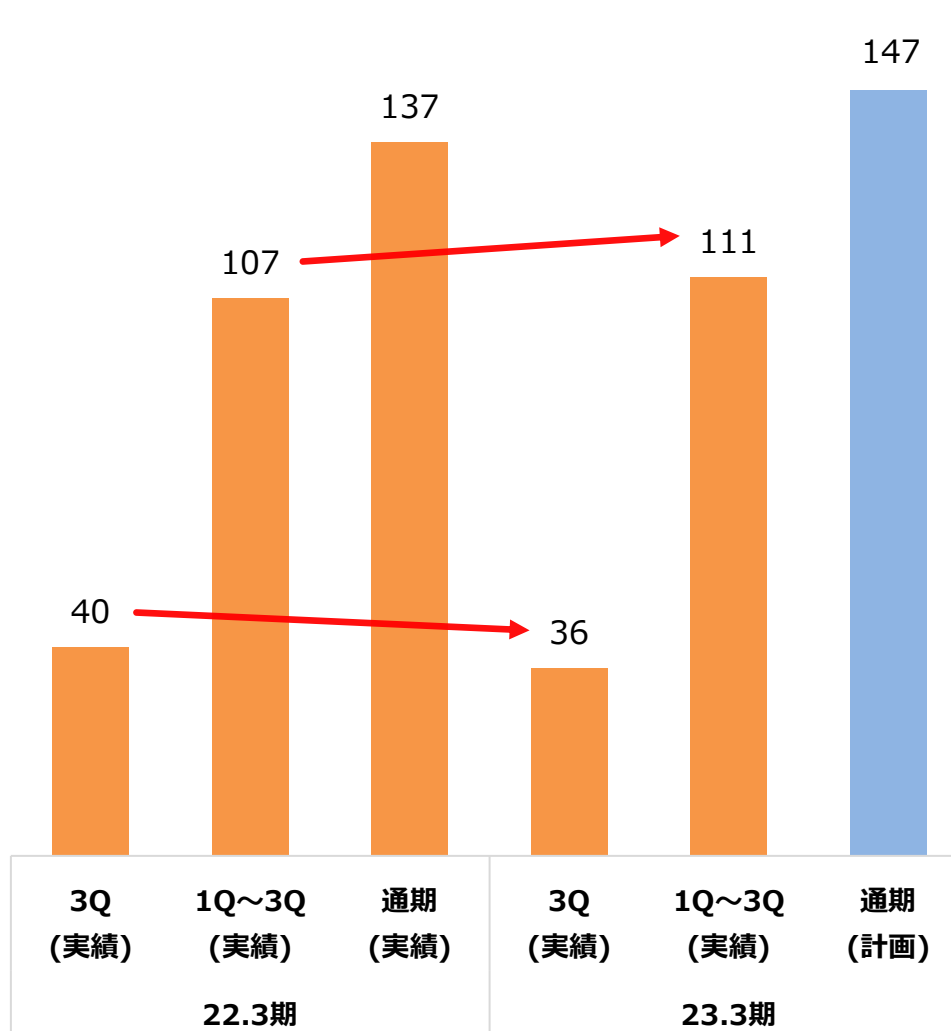
卸売

- 卸売および市場取引を積極的に活用
- 数量は減少したが、市場高騰により売上高増

豊前発電所・中城発電所

- 他社に全量売電。計画通り稼働

（単位：億円）



経常利益 **111** 億円

前年同期比 3.7%

- 卸売りを積極的に活用したものの、資源価格高騰に伴う電力調達コスト及び燃料調達コストが増加
- 小売の利益率が順調に改善
- 円安影響による為替差益
(外貨預金、関係会社外貨貸付金)
- ベトナム関連事業拡大、事業税等により販管費増加

決算概要 ～2022.3期～

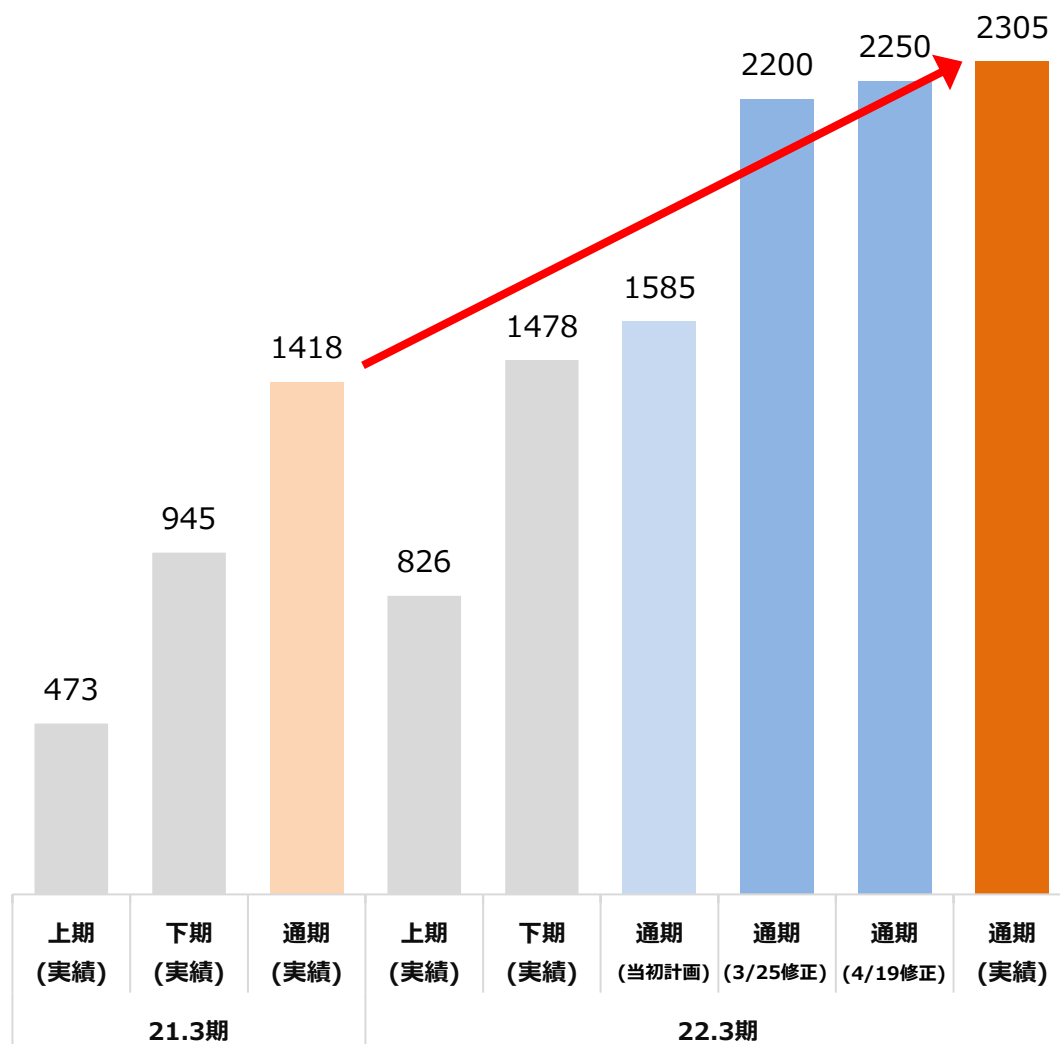
2022.3期通期実績(2021年4月~2022年3月)

(単位：億円)	'21.3期 通期累計 (実績)	'22.3期 通期累計 (当初計画)	'22.3期 通期累計 (3月25日修正)	'22.3期 通期累計 (4月19日修正)	'22.3期 通期累計 (実績)	当初計画 増減率
売上高	1418.8	1585.0	2200.0	2250.0	2305.0	45.4%
EBITDA*	181.1	167.6	—	—	196.7	—
営業利益	157.2	114.0	90.0	120.0	124.9	9.6%
経常利益	148.5	115.0	116.0	130.0	137.6	19.7%
純利益*	62.8	65.0	79.5	90.0	96.5	48.4%

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

*親会社株主に帰属する当期（上期）純利益

(単位：億円)



売上高 **2,305** 億円

前年同期比 +62.5%

高圧小売

- 売上高増(同+69.6%)
- 使用量の多い需要家等への営業強化により販売量は順調に推移

低圧小売

- 売上高増(同+14.8%)
- 需要家件数増 約29万件(同+5.6万件)

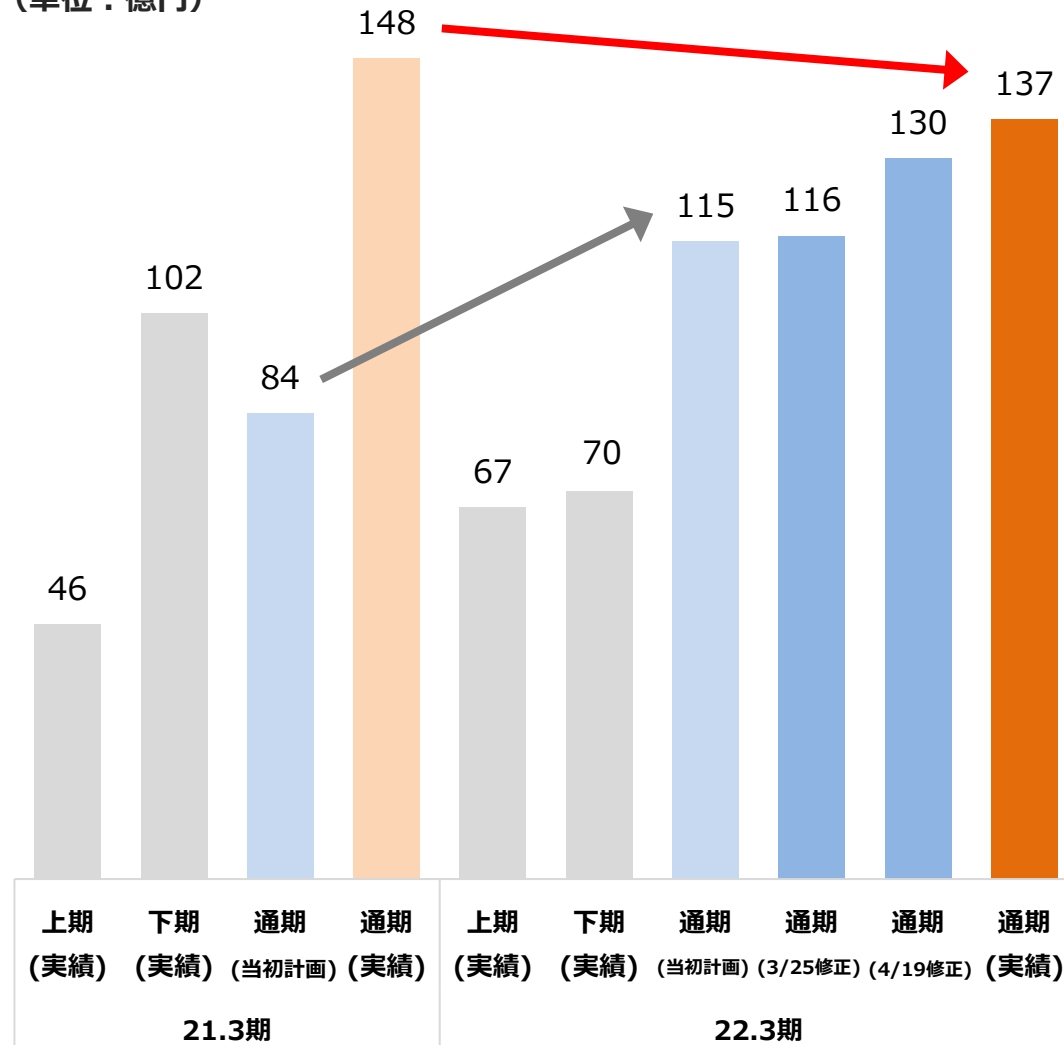
卸売

- 卸売および市場取引を積極的に拡大、デリバティブ取引も活用

豊前発電所・中城発電所

- 他社に全量売電。概ね順調に稼働

(単位：億円)



経常利益 **137** 億円

前年同期比 $\Delta 7.4\%$

- 当初計画に対して+22億円上回る
- 電力調達コスト上昇の影響や、市場価格の変動リスクを、相対契約やデリバティブ取引の活用により低減し、増益に寄与
- LNG、石炭等の価格高騰により電力調達コストは上昇
- 高圧の販売価格の見直し

(参考) 前年度経常利益：148億円 (計画比+64億)
 冬場の市場価格高騰により相対電源を積増し、一部を卸売りした事により収益増

連結貸借対照表の概要

(単位：億円)	2021.3期	2022.3期		
		実績	増減	主な増減要因
流動資産	550	694	144	電力販売量の増加による売掛金の増加
固定資産	728	877	148	うるまの営業運転開始による固定資産の増加
資産合計	1,278	1,571	292	
流動負債	299	429	129	電力調達量の増加による買掛金の増加
固定負債	434	473	39	うるまの長期借入金の増加
負債合計	733	903	169	
株主資本	410	498	88	利益剰余金の増加
その他の包括利益累計額	30	58	28	繰延ヘッジ損益の増加
非支配株主持分	104	111	6	子会社の利益の取込による増加
純資産合計	544	668	123	
現金及び預金	317	271	△45	
有利子負債	476	536	59	
自己資本比率	34.5%	35.5%	1.0%	

連結キャッシュ・フロー計算書

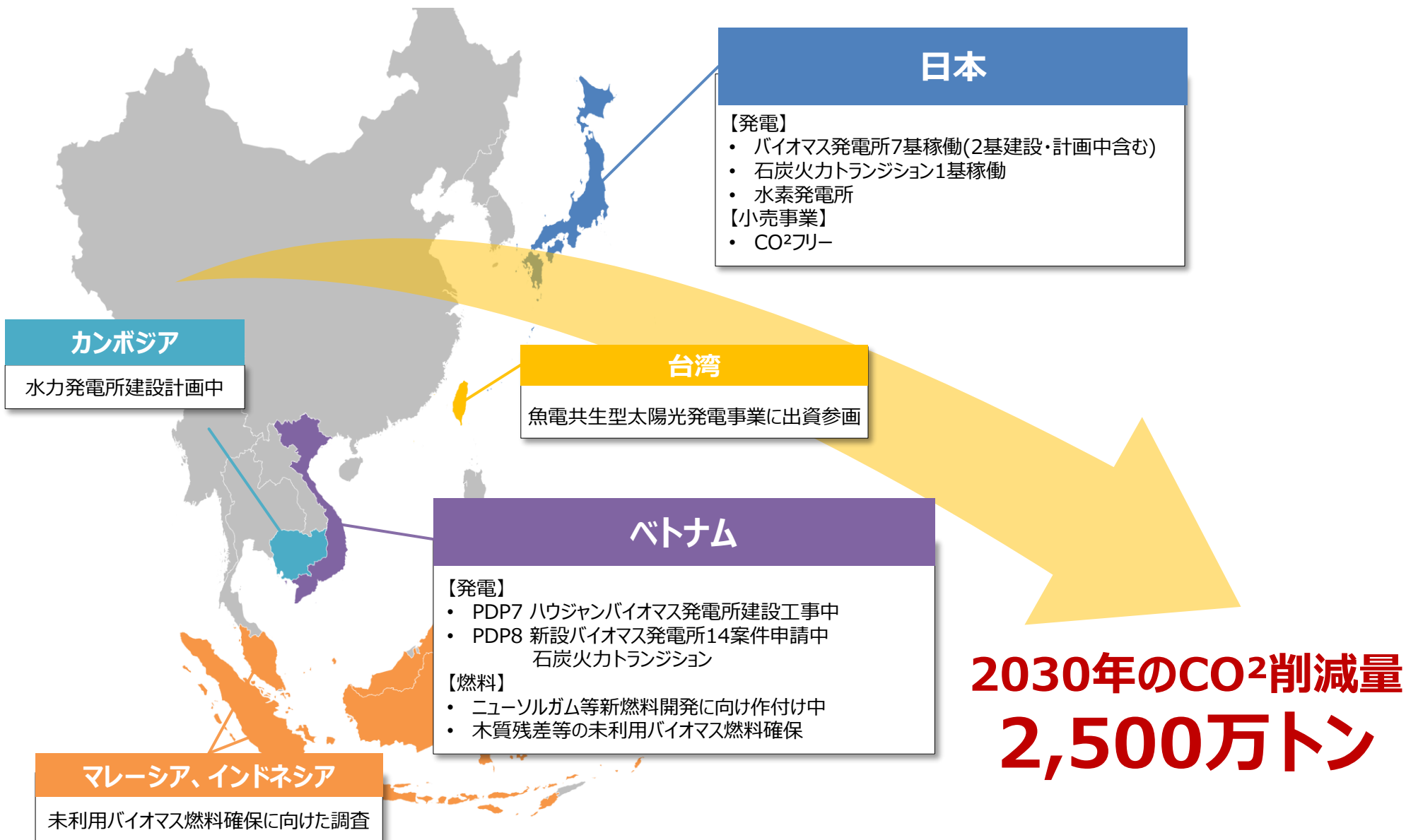


(単位：億円)	2021.3期	2022.3期		
		実績	増減額	期首残高からの主要な変動要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	187	133	△53	
税金等調整前当期純利益	135	138	2	
減価償却費	38	48	9	うるまの営業運転開始による増加
運転資金*の増減	△4	△68	△64	大口需要家の獲得による増加
法人税等の支払額	△35	△62	△26	課税所得の増加による支払額の増加
その他	52	76	24	収益認識基準の適用による預り金の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	△96	△229	△133	有形固定資産の取得による支出(うるま)
フリーキャッシュ・フロー	90	△96	△186	
財務活動によるキャッシュ・フロー	64	46	△17	長期借入れによる収入(うるま)
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1	0	
現金及び現金同等物の期首残高	162	317	154	
現金及び現金同等物の期末残高	317	267	△49	

*売上債権＋棚卸資産＋未収入金－仕入債務

appendix

燃料から発電、小売と各事業で脱炭素を推進。アジア諸国で脱炭素に向けた取組みを実施



ベトナム バイオマス発電事業

- PDP7承認 ハウジャンバイオマス発電所(20MW)建設中
- PDP8※申請 新設バイオマス発電所の建設を12省14案件
- 既存石炭火力トランジションに向けビナコミンパワーホールディングスとMOU締結済

カンボジア 水力発電事業

- 地元住民の移転完了。本体工事着工

台湾 太陽光発電事業

- 魚電共生型太陽光発電事業に出資参画

※ベトナム社会主義共和国 第8次電源計画

海外の脱炭素事業 – ベトナム初の商用バイオマス発電所

- PDP7承認 ハウジャン省において20MWのバイオマス発電所建設中
- 2024年10月運転開始予定
- 地産地消バイオマス発電所としてもみ殻を使用

建設地



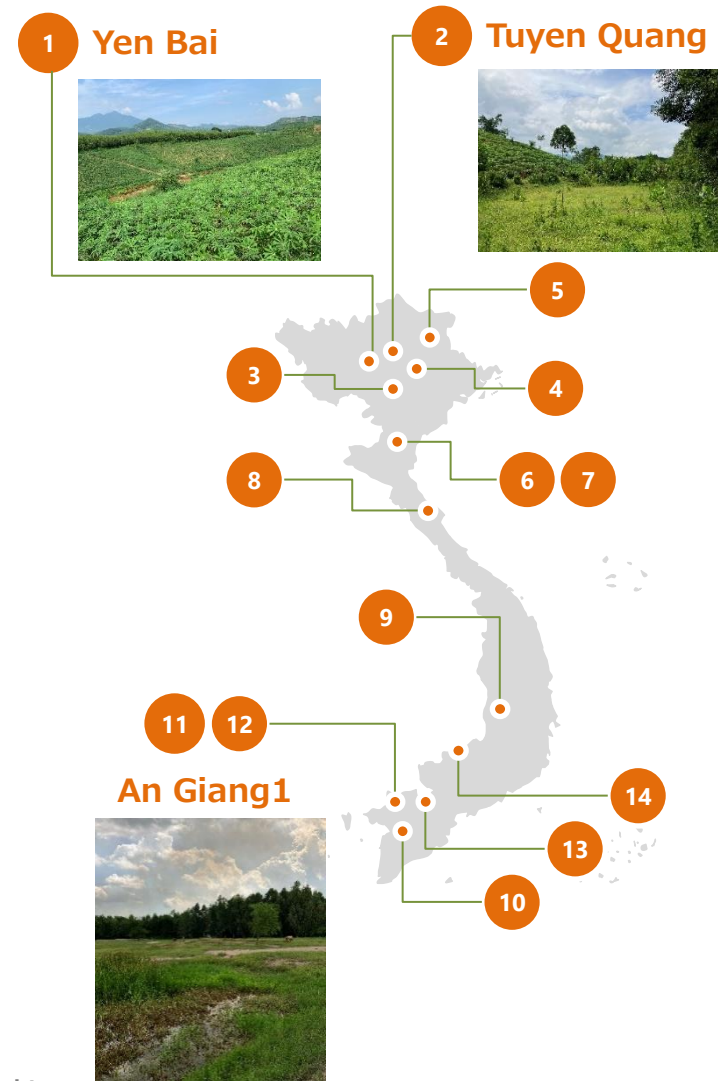
完成予想図

事業会社名	Hau Giang Bioenergy Joint Stock Company
発電所名	ハウジャンバイオマス発電所(Hau Giang Biomass Power Plant)
建設予定地	ベトナム社会主義共和国 ハウジャン省
運転開始(予定)	2024年10月
出資会社(予定)	イーレックス(株) 51% Power Engineering Consulting Joint Stock Company 2 10% Son My Renewable Energy Joint Stock Company 19% Ninh Thuan Agriculture & Renewable Energy Joint Stock Company 9% その他燃料供給会社 11%
売電価格	8.47US cent/kWh (現地FIT制度による)
発電出力	20MW (年間発電量は一般家庭約 93,000 世帯分)
燃料	もみ殻(年間約13万 t)

海外の脱炭素事業 – ベトナム新設バイオマス発電所

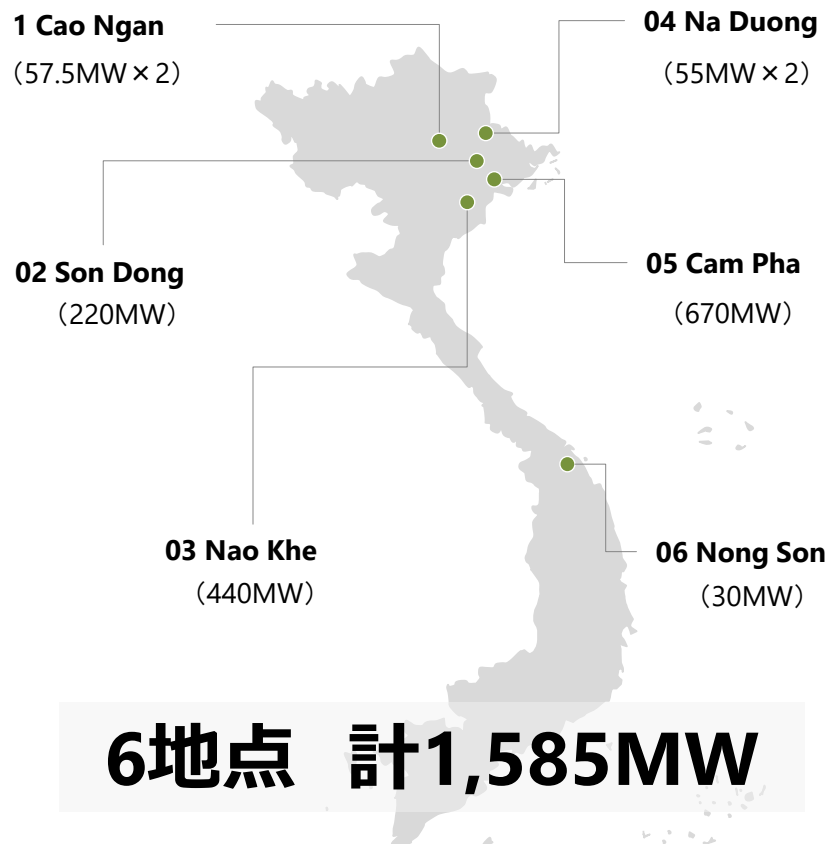
- 12省14案件/合計1,119MWについて、PDP8の承認予定
- 先行案件として3地点（Yen Bai、Tuyen Quang、An Giang1）のフィージビリティスタディ開始済

		プロジェクト名
北部	1	Yen Bai
	2	Tuyen Quang
	3	Hoa Binh
	4	Phu Tho
	5	Bac Kan
中部	6	Thanh Hoa 2
	7	Thanh Hoa 1
	8	Quang Binh
	9	Dak Lak
南部	10	Can Tho
	11	An Giang 1
	12	An Giang 2
	13	Long An
	14	Binh Phuoc



- ビナコミンパワーホールディングス※と、石炭トランジションに向けた覚書を締結し、早期のバイオマス混焼に向けた検討を加速
- 本取組を通じ、ベトナムの安定供給・脱炭素・エネルギー自給率向上などに貢献

ビナコミンパワー社が保有する石炭火力発電所



第2回 アジアグリーン成長パートナーシップ閣僚会合



経済産業省主催の、第2回アジアグリーン成長パートナーシップ閣僚会合（2022年9月26日）の場で、ビナコミンパワーホールディングスと、ベトナムにおける石炭火力発電所へのバイオマス燃料混焼・専焼によるトランジションおよび新設バイオマス発電所などの建設の検討に向けた覚書を締結

※ベトナムの国営大手企業であるベトナム石炭鉱物産業のグループ会社で、火力発電所と水力発電所を運営し、その他発電所の建設、電力供給システム、発電、送配電、電力の売買、電力建設に関する投資プロジェクトの管理運営を行っている。

- 大規模な貯水量を有する水力発電であり、1年を通じて電気の安定供給が可能
- 2025年稼働に向け順調に工事進捗中
- Second Stepとして省水力への展開、バイオマス燃料開発

完成予想図

水抜きパイプ挿入工事



取水口工事



発電能力	80MW
総投資コスト	USD231百万
売電契約先	カンボジア電力公社
売電価格	7.9 ¢ /kWh （35年間）
ダム面積、貯水量	85km ² (12億m ³)
稼働時期	2025年（予定）

- 事業計画地が、漁電共生型太陽光発電の特区認定を取得
- 台湾政府は、漁業と発電事業の共生を図る『漁電共生型』を新たな太陽光発電の手法と捉え、2025年までに同手法で4GWの導入を目指す

漁電共生型太陽光発電所のイメージ

事業会社名称	鼎龍能源科技股份有限公司
発電所所在地	彰化県芳苑郷王功段（719,338平方メートル）
発電容量	約55MW
開始時期	2024年度中（計画）
売電期間	20年間



ベトナム 新燃料の自社開発、未利用バイオマス燃料の確保

- タイニン省、フーエン省、ロンアン省にて新燃料ニューソルガムの作付けを実施中
- 木質残差等の未利用バイオマス燃料の確保に向け推進中
- もみ殻等のバイオマス燃料保管用倉庫を確保

インドネシア、マレーシア 燃料保管用のストックパイルを保有

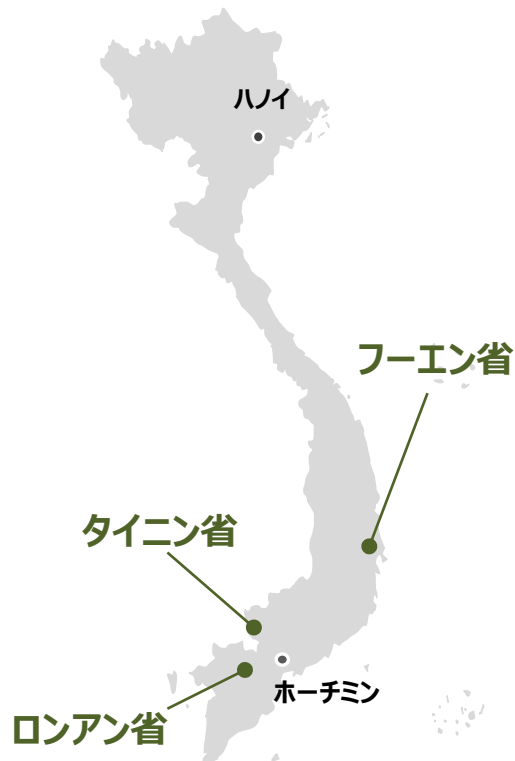
- 2カ所ストックパイルを保有。燃料の安定供給に寄与

東南アジア各地 未利用バイオマス燃料確保に向けた調査

- 未利用バイオマス燃料の有効活用に向けて調査を実施中

海外の脱炭素事業 – 新燃料ニューソルガムの開発

- 3期作の燃料のため、CO2削減効果が見込め、低コストで栽培が可能
- 現在3地点で作付け中。2024年の日本への出荷に向け推進中
- 計画中のNon-FIT大型バイオマス発電所と、糸魚川石炭火力発電所、計画中の石炭火力トランジションに利用予定



その他栽培候補地調査中

作付け風景



候補地	状況
タイニン省	● 100haの栽培を実施中(1月播種) ● 4月より570haまで拡大予定
ロンアン省	● 42haの栽培を実施中(1月播種) ● 更なる拡大に向け農地調査中
フーエン省	● 1.3haの栽培を実施中 ● 来年度以降も同農地で栽培を継続し、通年の 台風影響を確認する

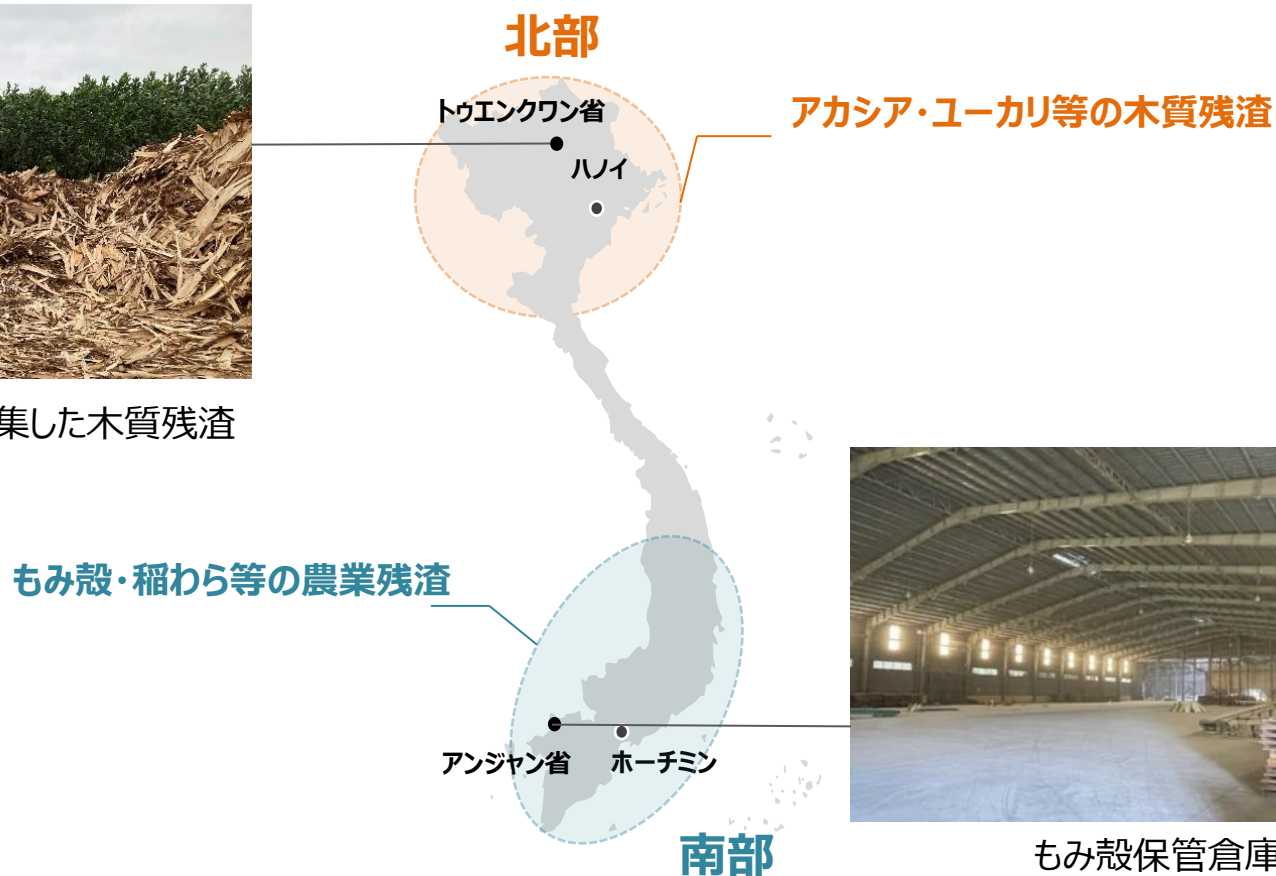
※耕地に作物の種子をまくこと

- ベトナムにある未利用バイオマス燃料を確保し、ベトナムで開発中のバイオマス発電所や石炭火力トランジションへの混焼用燃料として利用。また日本への輸出も計画
- 集積所の確保や集積方法の確認を実施
- 2024年にペレット工場建設予定

ベトナムにある未利用バイオマス燃料(当社調べ)



トゥエンクワン省にて収集した木質残渣



もみ殻保管倉庫

1 バイオマス発電所開発、既存バイオマス発電所運営

- バイオマス発電所を建設中含め6基(344MW)稼働※2025年に坂出發電所稼働予定
- 世界最大級300MW Non-FIT大型バイオマス発電所建設計画中。
FIT制度※から経済的に自立した発電所であり、脱炭素と供給力に貢献

2 石炭火力トランジションを推進

- 糸魚川石炭火力発電所(149MW)を譲受。2023年度9月を目途にバイオマス燃料試験混焼予定
- 他の石炭火力発電所のバイオマス化に向け、各企業と協議中

3 水素事業展開

- 2022年4月より水素発電所稼働中(山梨県富士吉田市)
- 水素の事業化に向け推進中

小売

CO²フリープランの展開、CO²排出係数の低減

- CO²フリープラン等環境に配慮した料金プランを展開
- 非化石証書率100%の達成目指す
- 当社 0.47 t -CO²/kWh ※(旧一般電気事業者0.46)の低減

トレーディング・その他

海外脱炭素事業のCO²削減効果を活用

- JCM等を利用した国内CO²削減
- バイオマス燃料の船舶用燃料のヘッジ取引

※電気事業者別排出係数 環境省・経済産業省公表 出典

erex

ENERGY RESOURCE EXCHANGE